

令和4年度ラムサール条約登録湿地関係市町村長会議
及び第13回学習・交流会 開催報告

令和5年3月末

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議事務局

【概要】

令和4年度ラムサール条約登録湿地関係市町村長会議及び第13回学習・交流会が、令和4年10月20日（木）、21日（金）の2日間、2012年のラムサール条約湿地登録から10周年を迎えた栃木県栃木市の「渡良瀬遊水地」及び「栃木グランドホテル」を会場に開催されました。

国内のラムサール条約登録湿地53箇所のうち25の会員市区町村に加え、関係省庁、NPO関係者など、約70名の参加をいただきました。

【現地視察、市町村長会議】

初日の現地視察では、栃木市を含む4県4市2町にまたがる国内最大級の遊水地である「渡良瀬遊水地」へバスで移動しました。

第2調節池を望む生井桜つつみの堤防では、野外コウノトリが3年連続で繁殖したの人工巣塔を見学し、渡良瀬調節池（通称：谷中湖）ではウォッチングタワーから渡良瀬遊水地ガイドクラブによる案内の下、広大なヨシ原を見学していただきました。

続いて藤岡渡良瀬運動公園では、栃木市熱気球クラブの協力による熱気球係留飛行体験を行い、秋晴れの下、空からの渡良瀬遊水地の景色を楽しんでいただきました。

次に、「栃木グランドホテル」にて開催した市町村長会議では、会長の栃木市長 大川秀子氏及び来賓の国土交通省利根川上流河川事務所長 津森貴行氏からご挨拶を頂いた後、議事に移りました。議事では鹿児島県出水市の新規加入の報告、令和3年度事業報告及び決算報告、令和4年度事業計画（案）及び予算（案）、次期役員（案）について審議され、いずれも原案どおり可決・承認されました。次期役員（令和5年度～令和7年度）には、会長に釧路市長、副会長に栃木市長と佐賀市長、監事に大崎市長と豊岡市長が選任されました。また、今後の取り組み方針等を掲げる「[渡良瀬遊水地宣言](#)」が採択となりました。



▲生井桜つつみ



▲熱気球係留飛行を体験



▲市町村長会議（集合写真）



▲採択された「渡良瀬遊水地宣言」

【学習・交流会】

翌21日の学習・交流会では、「ラムサール条約登録湿地と自治体づくりの新段階」をテーマとして、ラムサール条約湿地自治体認証制度についての事例発表と意見交換などを行いました。

はじめに、会長の栃木市長 大川秀子氏から挨拶に続いて、コーディネーターの東京農工大学農学研究院教授 朝岡幸彦氏からの趣旨説明がありました。

第1部では、環境省野生生物課長の中澤圭一氏からラムサール条約第14回締約国会議と湿地に係る政策動向について、また、日本湿地学会副会長の名執芳博氏から自治体認証制度のしくみの紹介の後、新潟市と鹿児島県出水市から認証事例の報告をいただきました。

第2部では、渡良瀬遊水地関係市町及び関係団体からの事例報告と意見交換を経て、最後のまとめとなりました。



▲会長あいさつ（栃木市長）



▲意見交換